

医大附属病院周辺地区

第 4 回市民ワークショップを開催しました！

平成 30 年 11 月 17 日(土)に、最終回となる医大附属病院周辺地区の第 4 回市民ワークショップを開催しました。

当日は 19 名の市民の皆さまにご参加をいただき、これまでの議論を整理したワークショップ案について、全員で意見交換をし、最終案としてとりまとめました。

開催日時:平成 30 年 11 月 17 日(土)

13 時 30 分～16 時 30 分

会場:大和信用金庫八木支店 3 階第 1 会議室



集合写真

市民ワークショップの流れ

【第 1 回 市民ワークショップ】8 月 25 日開催 済
【テーマ】
○榎原市・対象地周辺の魅力について
○対象地周辺の課題や改善したいところについて

【第 2 回 市民ワークショップ】9 月 15 日開催 済
【健康】「交流」「生活・暮らし」の 3 つをテーマに、必要と考えられる機能や施設、取り組みについて

【第 3 回 市民ワークショップ】10 月 20 日開催 済
まちづくり検討エリアに必要な機能の抽出と配置について

【第 4 回 市民ワークショップ】11 月 17 日開催
第 1 回から第 3 回の議論をまとめたワークショップ案の作成



ワークショップ参加を通して

各班の代表者から、今回ワークショップに参加した感想を頂きました。

- 1 班 市民のみなさんと一緒に景観を良くしていきたい！
- 2 班 ワークショップに参加して榎原の歴史や、地元の方のお話を聞けて本当によかった！
- 3 班 ワークショップに参加して、日々の生活でも見方が変わった！
- 4 班 子育てしながらのワークショップ参加はなかなか大変。今後の動きに期待しています！
- 5 班 市民も市も県も一緒になってこのワークショップで決めたことを実現しましょう！

第 4 回ワークショップの概要

1 各班で議論

これまでのワークショップで出た意見を基に整理した「検討エリアの基本的な認識」「医大附属病院周辺地区市民ワークショップ(案)」について各班で議論をしていただきました。



2 全体で議論・最終案のとりまとめ

各班の意見を代表者が発表し、ワークショップ案にどのように反映するか全員で議論し、そこで出た意見をもとに、最終案としてとりまとめました。



3 行政へ提案！

最後に、各班の代表者が直接奈良県と榎原市の担当者にワークショップ案を手渡しました。



※詳しい内容は裏面を参照ください。

＜お問い合わせ先＞

榎原市役所 総合政策部 地域創造課

榎原市八木町 1 丁目 1 番 18 号(本館 2 階)

TEL 0744-21-1117





ワークショップの主な意見



検討エリアの基本的な認識

橿原市、検討エリア周辺の魅力

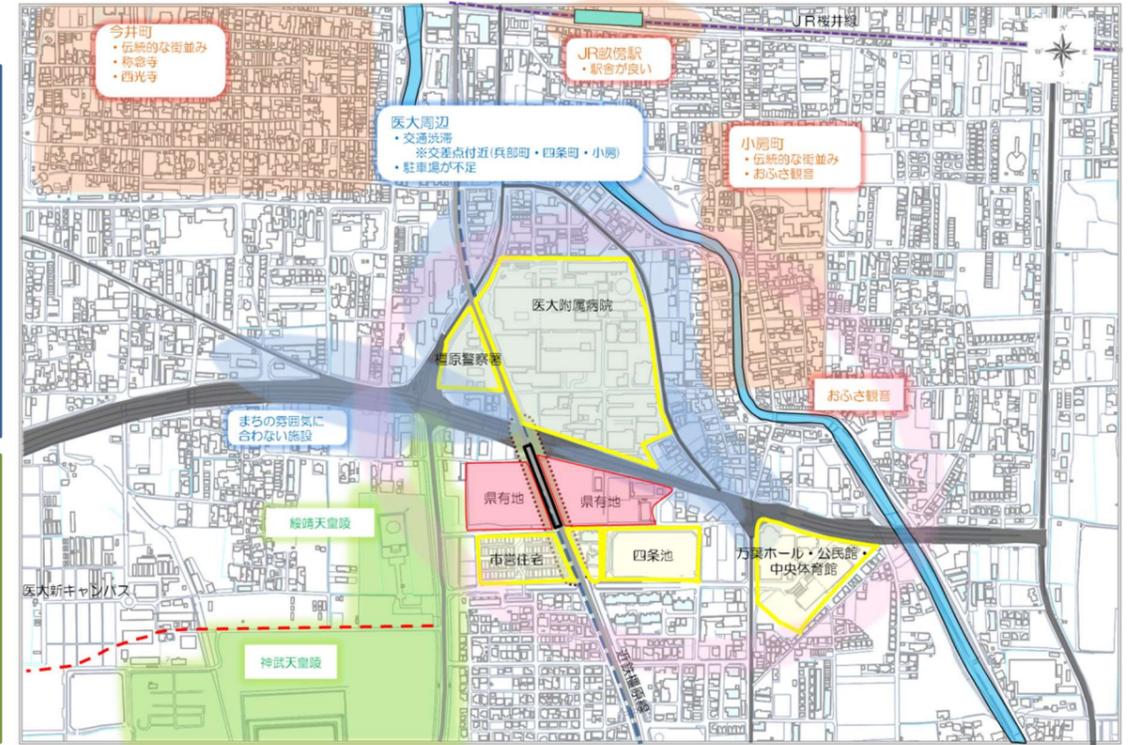
- 今井町・小房町の歴史的な街並みや、古墳・文化財などの歴史的資源が多い。
- 橿原神宮やおふさ観音、本薬師寺のホテアオイ、久米寺のアジサイなど、観光資源が多い。
- 大和三山に囲まれ、緑や花などの自然が多く、四季を感じられる。
- 大阪、京都、名古屋にアクセスしている鉄道の利便性が良い。
- 大きな病院から診療所まで数多くあって充実している。
- 災害が少なく、住みやすい。

検討エリア周辺の課題や改善したいところ

- 駅周辺や幹線道路は交通量が多く、いつも渋滞している。
- 医大周辺の駐車場が不足している。
- 循環バスなどの公共交通機関が少ない。
- 駅から医大附属病院へ向かう歩道が狭く、路面もガタガタしている。
- 子供が遊べる公園や広場が少ない。
- 周辺でランチのできる場所が少ない。
- 観光資源が十分に活用されていない。
- ※これらの貴重なご意見は、今後、担当課で検討していきます。

まちづくりを行う上で、配慮してほしいところ

- まちの景観に配慮してほしい。(農地の保全・建物の高さ)
- 環境(エコ)に配慮したまちづくりを行ってほしい。
- 機能を導入するためにスポンサーを活用してほしい。
- 予算をかけすぎず、今あるものを有効に活用してほしい。
- 八木駅前とのバランス(役割分担・不要なものを重複させない)に配慮してほしい。
- 人口の維持・増加に配慮したまちづくりを行ってほしい。
- 市民が移動しやすい環境をつくる(道路・バス・駐車場など)



医大附属病院周辺地区 市民ワークショップ最終案

まちづくりで実現したいポイント

1. 医者や学生、地域の人たちが、学び気軽に交流できる
2. 子どもからお年寄りまで頼れる人が身近にいて安心して過ごせる
3. 人々の暮らしが便利で豊かになり、駅周辺で活動する人が増える
4. 病院の利用者にとってもその家族にとっても、便利で滞在しやすい
5. 人々が自然を感じながら、健やかに暮らせる
6. 地域の内外の人に医療のまちの魅力を伝える

<駅西側>みどりと歴史に触れる落ち着いた憩いゾーン

- みどりと調和する癒しの空間の創出。
- 病院利用者やその家族にとって利用しやすい宿泊施設の立地。
- 子ども達が安心して遊べる施設、周辺の歴史スポットへと続く散策道の玄関口としての機能設定。



公園イメージ：てんしば (大阪府HPより)



患者家族の宿泊施設イメージ (マクドナルドハウスHPより(内観))

<駅中心>駅を中心とする生活と交流の拠点ゾーン

- 地産地消を取扱うレストラン・直売所など、病院来訪者や地域の方が気軽に利用できる賑わい施設の立地。
- 医大附属病院と駅や東西エリアを繋ぐ安全・安心で移動しやすい歩行者空間ネットワークの形成。



直売所イメージ：まほろばキッチン (JAならけんHPより)



歩行者空間イメージ 大和八木駅自由通路

<駅東側>病院・大学との連携・交流ゾーン

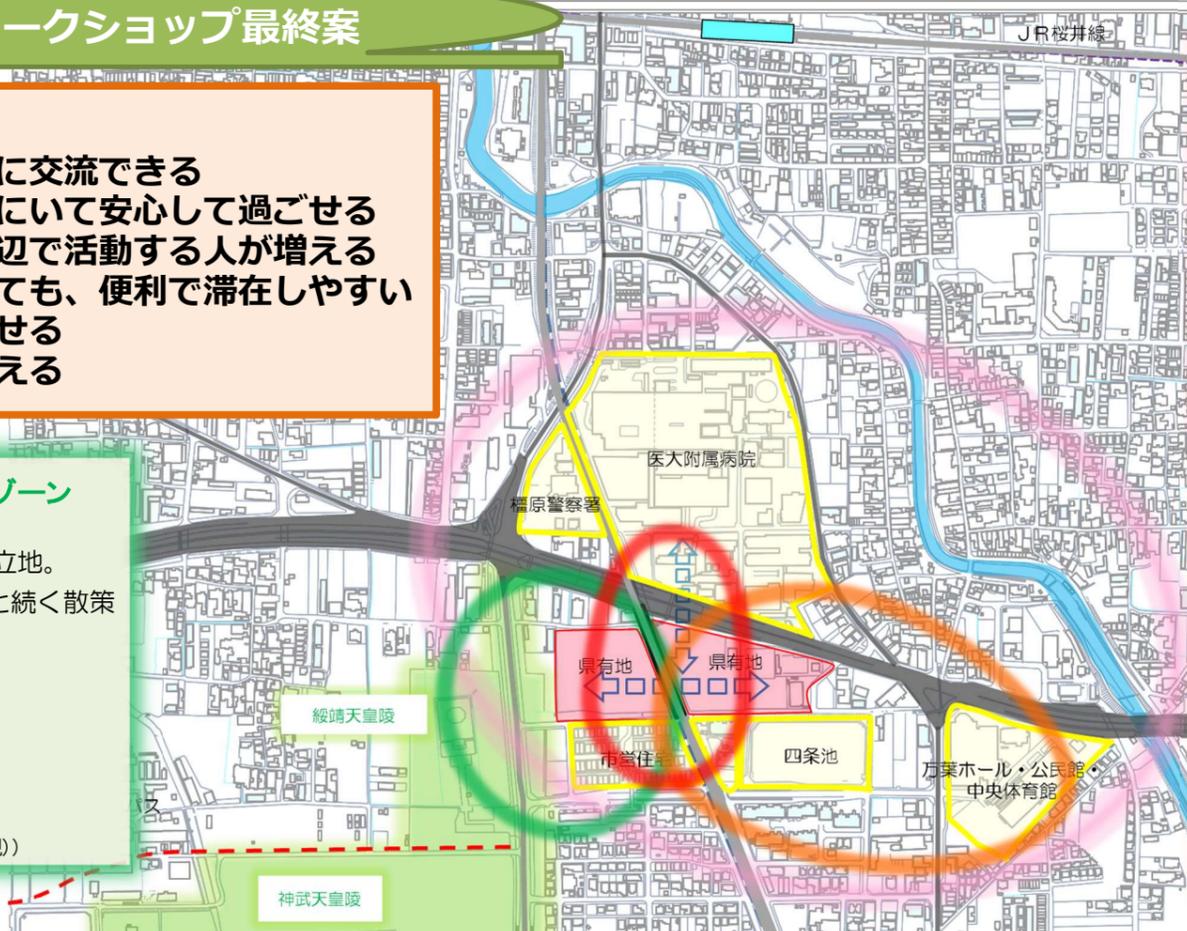
- 医師・学生・地域住民など、駅周辺で活動する人々が交流できる場所の創出。
- 病院や大学などと連携し、様々な企画イベントが開催できる多目的交流センターなどの立地。
- 四条池の水面を活用し、人々の出会いと活動が広がるオープンスペースの創出。



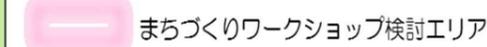
交流の場イメージ



イベントイメージ



歩行者動線



まちづくりワークショップ検討エリア

*このまちづくりワークショップ検討エリアをもって事業が進む訳ではありません。
*市営住宅については住替え計画に基づく事業が進めば将来的にエリアへの編入を検討するものです。